

沖縄文化研究所

I 2021年度 大学評価委員会の評価結果への対応

<p>【2021年度大学評価結果総評】(参考)</p> <p>沖縄文化研究所では、新型コロナ感染症禍のもと、深瀬公一郎氏(長崎歴史文化博物館客員研究員・本研究所国内研究員)を講演者とする講演会「島津重豪の時代と琉球」、および本研究所主催、沖縄県立博物館・美術館共催、沖縄タイムス社後援のシンポジウム「グスクとしての首里城——東アジアの視点から——」が実施され、ともにYouTube 動画配信によるオンライン公開されたことは評価できる。ウチナー口研究会、オモロ研究会、宮古研究会がオンラインにて開催されたことは評価できる。例年、春・秋両学期にオムニバス形式で開講している総合講座「沖縄を考える」(ILAC 授業科目)が開催できなかったことは、予想できなかった新型コロナ感染症禍に原因があり、止むを得ない結果であると判断する。研究成果を示す定期刊行物が『琉球の方言』を除いて刊行されたことは評価できる。</p> <p>「沖縄学研究機関所長会議」は琉球大学島嶼地域科学研究所、沖縄国際大学南島文化研究所、沖縄大学地域研究所、沖縄県立芸術大学芸術文化研究所、名桜大学環太平洋地域文化研究所、法政大学沖縄文化研究所の六つの研究所で構成されている。「本土」にある研究機関として、その特質を生かした情報発信・教育研究を進めてゆくことが期待されている。また、研究所の基盤をなす活動として、貴重な学術資料の整理と公開が、今後着実に進展してゆくことを期待する。なお、自己点検・評価シートでの自己点検において「長所・特色」、「問題点」が挙げられていなかったが、今後の発展のために必要であると考えられる。</p>
<p>【2021年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ禍の長期化により、総合講座「沖縄を考える」は2021年度も不開講となったが、以下の2つの講演をYouTube 動画配信の形態で公開した。 <ul style="list-style-type: none"> ①「占領下沖縄における学校教育の成立(1945-1949)」(講演者:萩原真美聖徳大学准教授・本研究所国内研究委員、コメンテーター:戸邊秀明東京経済大学教授・本研究所兼任所員、2021年9月27日より動画公開) ②「上代東国方言と琉球の古典語」(講演者:福 寛美本研究所兼任所員、コメンテーター:間宮厚司本学教授・本研究所兼任所員、2021年12月17日より動画公開) ・2020年度は休刊を余儀なくされた『琉球の方言』を含め、定期刊行物は全点刊行にいった。 ・「本土」にあって施設を有する唯一の琉球・沖縄研究機関である本研究所は、2022年に創立50年を迎えるが、研究所が蓄積してきた研究成果と情報を発信するため、記念シンポジウム・記念刊行物・記念展示などの創立50年記念事業および関連事業を企画し、その企画を実現するための諸作業に着手した。

【2021年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

<p>沖縄文化研究所は、「本土」に施設を有する唯一の琉球沖縄研究機関として研究成果の発信を進めていくことを求められていたが、創立50年という節目の年を前にして記念シンポジウム、記念刊行物などの創立50周年記念事業の企画に着手されたことは評価できる。2020年度には休刊されていた『琉球の方言』を含む、全ての定期刊行物が刊行にいったことは高く評価できる。一方で、2020年度に続き2021年度も総合講座「沖縄を考える」が実施できなかったことは、新型コロナ感染症禍のもと先の見通しが効かない状況であったことを考えると止むを得ない結果であると判断する。講座の実施は叶わなかったが、2つの講演についてyoutube 動画配信という形態で公開が行われており社会に向けて情報発信の役割を果たしていることが認められる。</p>
--

II 自己点検・評価

1 理念・目的

(1) 点検・評価項目における現状

<p>1.1 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、研究所(センター)の目的を適切に設定しているか。</p> <p>1.1①研究所(センター)として目指すべき方向性等を明らかにした理念・目的が設定されていますか。2018年度1.1①に対応</p>
<p>はい</p>
<p>※理念・目的の概要を記入。</p> <p>・紀要『沖縄文化研究』など定期刊行物の発行、総合講座「沖縄を考える」やシンポジウムの開催、文献・史資料の収集と閲覧提供といった琉球・沖縄に関する総合的な研究活動に取り組み、社会に開かれた研究機関を目指す。</p>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ
 ※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善することができた、A:従来通り効果的に取り組むことができた。B:改善することができなかった。」を意味する。

1. 1②理念・目的の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。2018年度1.1②に対応

※検証を行う組織（各種委員会等）や検証の時期等、具体的な検証プロセスを記入。

- ・学内外にける沖縄研究体制の変化、および沖縄というフィールドをめぐる政治的・社会的・文化的環境の変動を踏まえ、必要に応じて運営委員会で議論し検証を行っている。

1. 2 研究所（センター）の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

1. 2①研究所（センター）の理念・目的を教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか。2018年度1.2①に対応

はい

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容

- ・本研究所の活動目的や沿革、目指す方向性などについては、研究所 HP などによって広く公開されているし、学生に対しては総合講座「沖縄を考える」という L.A 科目をオムニバス形式で開講し、沖縄に関するさまざまな問題を多角的にとりあげている。さらに、研究所創立 50 年を機に、案内パンフレットを一新した。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に行っている場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容

- ・研究所 HP の内容も研究所創立 50 年を機に充実させていく必要がある。
- ・新型コロナウイルス禍の影響により、2022 年度の総合講座「沖縄を考える」（全回）はオンデマンド形態で本学学生のみ受講可能だが、同ウイルスの感染状況を見極めながら、次年度以降は一般社会人の聴講を再開し、コロナ禍以前の多いときは 100 名程度あったその数を更に増加させたい。

【理念・目的の評価】

沖縄文化研究所の理念・目的は適切に設定されていることを確認した。理念、目的の適切性は、沖縄というフィールドをめぐる政治的、社会的、文化的環境、学内外の研究体制の変化・変動をふまえ適宜、運営委員会で議論・検証されていることは評価できる。研究成果は、研究所 HP において広く公開されている。定期刊行物、総合講座等はコロナ感染症禍のため例年通りにできない年もあったが、2021 年度は全ての定期刊行物が刊行に至っている。総合講座は 2022 年度は学生向けオンデマンド講義として開催されるが、2023 年度以降は一般社会人の聴講を再開させる予定となっており、今後も社会への研究成果の発信の継続が期待される。

2 内部質保証

(1) 点検・評価項目における現状

2. 1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。

2. 1①質保証活動に関する各種委員会は適切に活動していますか。2018年度2.1①に対応

はい

【2021 年度における質保証活動に関する各種委員会の構成、活動概要等】※箇条書きで記入。

- ・2016 年度より、研究所運営委員会内に運営委員による内部質保証委員会を設けている。

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
・特になし

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に行っている場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
・その後、質保証委員のなかから定年退職者や退任者が出ているので、委員を補充し委員会機能の拡充をはかる必要がある。

【内部質保証の評価】

沖縄文化研究所では、2016 年度より研究所運営委員会内に内部質保証委員会を設けていることが確認された。課題として認識されていた質保証委員内からの退職者、退任者の問題は、適宜委員を補充し、適切な活動を維持していくことが期待される。

3 研究活動

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 研究所（センター）の理念・目的に基づき、研究・教育活動が適切に行われているか。

3.1①研究・教育活動実績（プロジェクト、シンポジウム、セミナー等）2021 年度 1.1①に対応

※2021 年度に研究所（センター）として実施したプロジェクト、シンポジウム、セミナー等について、開催日、場所、テーマ、内容、参加者等の詳細を箇条書きで記入。
<ul style="list-style-type: none"> ・「占領下沖縄における学校教育の成立（1945-1949）」（講演者：萩原真美聖徳大学准教授・本研究所国内研究委員、コメンテーター：戸邊秀明東京経済大学教授・本研究所兼任所員）を 2021 年 9 月 27 日より動画公開 ・「上代東国方言と琉球の古典語」（講演者：福 寛美本研究所兼任所員、コメンテーター：間宮厚司本学教授・本研究所兼任所員）を 2021 年 12 月 17 日より動画公開 ・楚南家文書および赤木文庫（横山 重琉球関係資料）の目録化および解説の作成作業を継続 ・研究所創立 50 年記念シンポジウム「いま沖縄を語る言葉はどこにあるか—復帰 50 年目のジャーナリストたちの挑戦」を企画 ・HOSEI ミュージアムとの共催で開催される展示「沖縄を知り、考え、つながる—法政大学沖縄文化研究所創立 50 周年記念展示」を準備
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・公開講演会については、沖縄文化研究所 YouTube チャンネルを参照されたい。

3.1②対外的に発表した研究成果（出版物、学会発表等）2021 年度 1.1②に対応

※2021 年度に研究所（センター）として刊行した出版物（発刊日、タイトル、著者（当研究所関係者は下線付記）、内容等）や実施した学会発表等（学会名、開催日、開催場所、発表者（当研究所関係者は下線付記）、内容等）の詳細を箇条書きで記入。
<ul style="list-style-type: none"> ・『沖縄文化研究』（研究所紀要）第 49 号発刊 ・『琉球の方言』第 45 号発刊 ・『沖縄文化研究所所報』第 88 号および第 89 号発刊 ・島村幸一・小此木敏明・屋良健一郎『訳注 琉球文学 『佐銘川大ぬし由来記』『周蘭両姓記事』『思出草』『浮縄雅文集』『雨夜物語』『永峰和文』』勉誠出版、2022 年（法政大学沖縄文化研究所監修[叢書・沖縄を知る]）発刊
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・上記はいずれも本研究所閲覧室に配架されている。

3.1③研究成果に対する社会的評価（書評・論文等）2021 年度 1.1③に対応

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ
 ※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

<p>※研究所（センター）がこれまでに発行した刊行物に対する 2021 年度に書かれた書評（刊行物名、件数等）や 2021 年度に引用された論文（論文タイトル、件数等）、掲載コンテンツダウンロード件数、表彰・受賞歴等の詳細を記入。なお、研究所（センター）に該当するものがない場合は、研究所員によるものを含めることが出来る。但し、この場合は研究所の研究領域に係るものとする。</p> <p>・前城淳子「〈書評〉『訳注 琉球文学』和文でできた豊かな世界」（『琉球新報』2022 年 5 月 15 日）</p> <p>・その他は不明</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>特になし</p>

3.1④研究所（センター）に対する外部からの組織評価（第三者評価等）2021 年度 1.1④に対応

<p>※2021 年度に外部評価を受けている場合には概要を記入。外部評価を受けていない場合については、現状の取り組みや課題、今後の対応等を記入。</p> <p>・他大学の専任教員をも含めた「所員会議」を年数回開催し、研究所の諸活動について報告・情報共有・審議している。</p> <p>・本研究所を含む 7 大学の研究所によって組織される「沖縄学研究機関所長会議」において相互に活動状況を報告し、情報交換を行っている。本研究所については概ね好評で、施設を有する本土唯一の沖縄研究機関として充実した活動への期待が表明されている。とくにコロナ感染対策として開設した〈法政大学沖縄文化研究所 YouTube チャンネル〉については高い関心が寄せられた。</p> <p>・また、本研究所では客員研究員というカテゴリーを設けて国外在住の沖縄研究者を同研究員に委嘱し、国際的な研究交流をはかってきており、その活動には高い評価が寄せられている。</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・運営委員会・所員会議議事録</p>
--

3.1⑤科研費及びその他外部資金の応募・獲得状況 2021 年度 1.1⑤に対応

<p>※2021 年度中に研究所（センター）として応募した科研費等外部資金及び 2021 年度中に採択を受けた科研費等外部資金について、研究担当者（代表・分担の別）、研究種目、事業名、実施年度、交付金額の詳細を箇条書きで記入。</p> <p>・本研究所を母体とした科研費課題の採択はない。</p> <p>・本研究所兼担所員については、大学からの補助金交付との関係もあり、科研費申請を奨励している。</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>

3.1⑥研究所（センター）における研究活動に関して、COVID-19 への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。2021 年度 1.1⑥に対応

<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>・文献・史資料の閲覧について、まん延防止等重点措置発出中は、以下の対応・対策を行っている。</p> <p>①月・水・金曜日の閲覧室開室を 10 時～（昼休み 12 時～13 時）～17 時（COVID-19 禍以前は 20 時）に短縮している。</p> <p>②閲覧室の利用には事前予約が必要としている。（利用者には、前営業日〔土日祝日は休業〕の 12 時までに本研究所宛にメールか電話で希望日時を連絡していただいている。）</p> <p>③利用者には、大学内への入構にあたって大学 HP のキャンパス入構ルールを確認するようお願いしている。</p> <p>④利用者には閲覧室利用予約票を印刷していただき、必要事項を記載のうえ、キャンパス入構時と閲覧室入室時に係員へ提出していただいている。（閲覧室利用予約票を事前に印刷できない利用者には、入室時に記入していただいている。）</p> <p>⑤利用者には、閲覧室への入室時には手指の消毒をお願いしている。</p> <p>⑥利用者には、閲覧室内でのマスク着用をお願いしている。</p> <p>⑦閲覧室の定員を 4 名までとしている（グループ利用は不可）。</p> <p>・新型コロナウイルスの感染状況を、また、大学の定める行動指針を見極めながら、所員・職員・アルバイトの勤務形態を適宜にオンライン勤務としている。</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ
 ※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
<p>・本研究所は、ときに政治的・経済的諸問題をも含む沖縄への関心を、アカデミックな学問領域として研究課題とする、施設を有する本土で唯一の研究所として活動してきた。在沖者を含む沖縄への問題関心を有する幅広い研究者群を研究者ネットワークとして結集する本研究所の、その活動の中心に位置づけられるのは、研究所創立いらい脈々と刊行を続けてきた多分野にわたる定期刊行物である。これらは、限られた研究所予算と決して十分とはいえない所員および事務体制のもとで、人的努力の積み重ねによって築きあげられてきた「長所」というべき成果である。現在、本研究所が抱える諸問題は、これら長年の努力による成果の維持すら危うくする可能性を示しているが、可能な限りの努力と社会的責任の自覚によって、現状を打開していきたい。</p>

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
<p>・上記「長所・特色」の欄の記述を参照されたい。</p>

【研究活動の評価】

<p>沖縄文化研究所において、講演の動画公開、定期刊行物の発行、研究所創立 50 年記念シンポジウムの企画等、地道な研究・教育活動が行われていることは評価できる。今後も施設を有する本土唯一の沖縄研究機関として、さらに講演、講座を充実させ、記念シンポジウムで広く成果を発信することが期待される。他大学との交流が行われていることは認められるが、第三者評価を定期的に受ける仕組みはない。一方で、講演をオンライン配信したことに加えて、まん延防止等重点措置発出中においては文献・史資料の閲覧室の事前予約制、人数制限等の導入をしており、こちらは COVID-19 対応として評価できる。今後の継続的な研究・教育活動の遂行とともに、外部資金獲得に向けた課題解決が望まれる。</p>

4 教育研究等環境

(1) 点検・評価項目における現状

4.1 教育研究を支援する環境や条件を適切に整備し、教育研究活動の促進を図っているか。

4.1①ティーチング・アシスタント (TA)、リサーチ・アシスタント (RA)、技術スタッフなどを配置することによる、教員の教育研究活動を支援する体制は整備されていますか。2018 年度 4.1①に対応

B: 改善することができなかった
<p>※教育研究支援体制の概要を記入。</p> <p>・本研究所に TA、RA、技術スタッフは存在しない。</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>

4.1②研究所 (センター) として、教育研究環境の整備に関して、COVID-19 への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。新規

<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>・総合講座「沖縄を考える」を、受講者多数により適当な教室が確保できないため、オンデマンド形態で開講している。</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・学習支援システムの総合講座「沖縄を考える」関係項目を参照されたい。</p>

(2) 長所・特色

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ
 ※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S: さらに改善することができた、A: 従来通り効果的に取り組むことができた。B: 改善することができなかった。」を意味する。

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
・特になし

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既の実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
・予算的にも、また、人力的にも一層の拡充を望む。とくに後者については、引き続き専門嘱託職員の雇用期間撤廃を大学側に求めている。

【教育研究等環境の評価】

沖縄文化研究所では、TA、RA、技術スタッフは配置されていないことが確認された。人員不足の問題は沖縄文化研究所の規模から考えると、研究所側の改善努力だけでは解決は難しいものと考えられる。

5 社会貢献・社会連携

(1) 点検・評価項目における現状

5.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また教育研究成果等を適切に社会に還元しているか。

5.1①学外組織との連携協力による教育研究の推進に関する取り組み及び社会貢献活動を行っていますか。2018年度 5.1①に
対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

※取り組み概要を記入。

- ・関西大学東西学術研究所とは交流協定を締結して連携をはかっている。
- ・2017年度からは国内の地域研究関連組織である JCAS (地域研究コンソーシアム) に加盟している。
- ・沖縄文化協会などの民間の研究組織との連携は可能な限り続けてきている。
- ・ILAC 科目として開設している総合講座「沖縄を考える」は学生向け授業科目であるが、これを社会人受講生にも無料で開放してきており、聴講生からの評価も高い。(なお、2020年度および2021年度は新型コロナ禍により科目自体不開講であった。)

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

- ・「占領下沖縄における学校教育の成立(1945-1949)」(講演者：萩原真美聖徳大学准教授・本研究所国内研究委員、コメンテーター：戸邊秀明東京経済大学教授・本研究所兼任所員)を2021年9月27日より動画公開
- ・「上代東国方言と琉球の古典語」(講演者：福寛美本研究所兼任所員、コメンテーター：間宮厚司本学教授・本研究所兼任所員)を2021年12月17日より動画公開

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・公開講演会については、沖縄文化研究所 YouTube チャンネルを参照されたい。

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
・特になし

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
・総合講座「沖縄を考える」が対面授業可能となったさい（2022年度は受講者多数により割り付け可能な教室が確保できなかったため、オンデマンド授業で開講）、新型コロナ禍以前の多いときは100名程度あった社会人聴講者を更に増加させる。

【社会貢献・社会連携の評価】

<p>沖縄文化研究所は、関西大学東西学術研究所との交流協定、JCAS（地域研究コンソーシアム）への加盟、沖縄文化協会などの民間の研究組織学外組織との連携を行なっている。総合講座「沖縄を考える」の社会人受講者に対するの無料開放は、研究成果の社会への発信として素晴らしい取り組みであると高く評価できる。この講座が2020、2021年度の不開講に加えて2022年度も社会人受講者が受けられないというのは惜しい状況であるので、対面・非対面に関わらず、早期の再開が課題である。一方で沖縄文化研究所のyoutubeチャンネルを通していくつかの講演が公開されており、学外への良い成果発信となっていることは高く評価できる。</p>

6 大学運営・財務

(1) 点検・評価項目における現状

6.1 方針に基づき、学長をはじめとする所要の職を置き、教授会等の組織を設け、これらの権限等を明示しているか。また、それに基づいた適切な大学運営を行っているか。

6.1①運営委員会等の権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。2018年度6.1①に対応

はい
<p>※概要を記入。</p> <p>・所長は兼担であるが、週に1、2度は研究所へ出向き、可能な限り研究所の統括業務に従事している。専任所員は1名であり、ほぼ毎日出所して研究所の多種多様な活動にあたっている。研究所運営委員会は、研究所規程および運営委員会規程にのっとり所長と専任所員を含む学内兼任教員8名の運営委員により構成され、年4回の運営委員会を開催し、研究所の運営に責任を負っている。また学外専門家・研究者を兼任所員として委嘱（2021年度は6名）し、規程には明記されていないが、それらの所員を交えての所員会議を随時に開催し、研究所活動の方針など議論している。さらに、客員所員・国内研究員・客員研究員（外国人在外研究者）・奨励研究員（大学院生クラス）は、総勢250名にのぼる。</p> <p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <p>・特になし</p>

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
・特になし

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
・本研究所創立50年を機に、国内研究員・客員研究員（外国人在外研究者）・奨励研究員（大学院生クラス）という研究員カテゴリーの再編を検討中である。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

【大学運営・財務の評価】

沖縄文化研究所の研究所運営委員会は、研究所規程および運営委員会規程にのっとり所長と専任職員を含む学内兼任教員8名の運営委員により構成されており、年4回と定期的に運営委員会を開催していることは評価できる。国内研究員・客員研究員（外国人在外研究者）・奨励研究員（大学院生クラス）という研究員カテゴリーの再編が、業務の効率化につながることを期待する。

III 2021年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	研究活動					
1	中期目標	人文・社会の2つの研究プロジェクトが毎年、研究成果を刊行する研究体制をつくる。研究のための外部資金を確保する。収集・受け入れの進んだ研究上の貴重文献や各種コレクションの整理を進め、閲覧可能な形にして提供するとともに、HP などによるデジタルアーカイブ化を進める。また各種定期刊行物の発刊に努める。					
	年度目標	①「総合講座 沖縄を考える」（秋学期）—難しい場合は、公開講座など代替事業—を実施する。 ②楚南家文書および赤木文庫（横山重琉球関係資料）の目録化と解説の作成を行う。 ③中野好夫資料の目録化を行う。（現在、資料の一部が目録化されているが、OPAC 登録情報とズレがあり照会しにくい。） ④各種定期刊行物を、予算面での可能性を勘案しながら、遅滞なく刊行する。 ⑤公開シンポジウムなど、沖縄復帰50年へ向けた記念事業を企画・立案する。 ⑥新型コロナウイルス感染症感染予防策をじゅうぶんはかりながら、可能なかぎり閲覧室の機能を維持する。 ⑦退任されるなどした運営委員の補充					
	達成指標	①については、実施できたか否かの実績 ②については、目録化と配列した文書の点数 ③については、目録化した資料の点数 ④については、各々の刊行物について刊行できたか否かの実績 ⑤については、立案できたか否かの実績 ⑥については、開室日数および閲覧者数など ⑦補充できたか否かの実績					
	年度末報告	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">執行部による点検・評価</th> </tr> <tr> <th>自己評価</th> <td>A</td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理由</td> <td> ①については、新型コロナ禍により2021年度も開講できなかったが、代替事業として公開講演会「占領下沖縄における学校教育の成立（1945-1949）」および「上代東国方言と琉球の古典語」をオンライン形式（YouTube）で実施した。 ②については、研究所創設50年記念事業の一環である前近代貴重史料・文献目録に収録すべく作業を継続している。 ③については、2021年度は未着手。研究所創設50周年関連事業として3ないし4年を目途に達成予定とする。 ④については、以下のとおり刊行済みである。 ・『沖縄文化研究所所報』：2回刊行 ・『沖縄文化研究』：刊行 ・『琉球の方言』：刊行 ⑤については、以下のとおり進捗している。 ・公開シンポジウム「いま沖縄を語る言葉はどこにあるか—復帰50年目のジャーナリストたちの挑戦—」を企画した。 ・記念刊行物である前近代貴重史料・文献目録を作成中である。 ・HOSEI ミュージアムと共催で記念展示「沖縄を知り、考え、つながる—法政大学沖縄文化研究所創設50周年記念展示」を準備作業中である。 </td> </tr> </tbody> </table>	執行部による点検・評価		自己評価	A	理由
執行部による点検・評価							
自己評価	A						
理由	①については、新型コロナ禍により2021年度も開講できなかったが、代替事業として公開講演会「占領下沖縄における学校教育の成立（1945-1949）」および「上代東国方言と琉球の古典語」をオンライン形式（YouTube）で実施した。 ②については、研究所創設50年記念事業の一環である前近代貴重史料・文献目録に収録すべく作業を継続している。 ③については、2021年度は未着手。研究所創設50周年関連事業として3ないし4年を目途に達成予定とする。 ④については、以下のとおり刊行済みである。 ・『沖縄文化研究所所報』：2回刊行 ・『沖縄文化研究』：刊行 ・『琉球の方言』：刊行 ⑤については、以下のとおり進捗している。 ・公開シンポジウム「いま沖縄を語る言葉はどこにあるか—復帰50年目のジャーナリストたちの挑戦—」を企画した。 ・記念刊行物である前近代貴重史料・文献目録を作成中である。 ・HOSEI ミュージアムと共催で記念展示「沖縄を知り、考え、つながる—法政大学沖縄文化研究所創設50周年記念展示」を準備作業中である。						

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

			<p>⑥については、新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置の発出にともなう閉室を除き、事前予約制・人数制限など感染症拡大防止措置をとりながら開室し、可能な限り閲覧室の機能を維持した。</p> <p>⑦については、法学部教員より1名の補充を決定した(2022年4月より就任予定)。以上により、目標をほぼ達成し、質の向上が見られると評価できる。</p>
		改善策	<p>①について、2022年度は、すでに決定しているオンデマンド形式により「総合講座 沖縄を考える」を着実に開講することが望まれる。</p> <p>②について、早期の達成が望まれる。</p> <p>③について、目標期間中の達成が望まれる。</p> <p>④については、特になし。</p> <p>⑤について、2022年度における確実な実施が望まれる。</p> <p>⑥については、特になし。</p> <p>⑦について、今後も現運営委員の退職時期などを考慮しながら、中長期的な視野から委員の補充に努めることが望まれる。</p>
No	評価基準	社会連携・社会貢献	
	中期目標	総合講座「沖縄を考える」への社会人の参加を広げる。沖縄の現状等に関するシンポジウム、講演会等を定期化する。	
	年度目標	<p>①「総合講座 沖縄を考える」(秋学期)について、一般社会人の聴講を増加させる。(新型コロナ禍以前の目標は「80名程度」まで増加させることであった。)</p> <p>②①の総合講座開講が難しい場合、代替公開講座などを実施し、一般社会人の聴講者を一定数確保する。</p> <p>③沖縄復帰50年へ向けた事業を企画・立案する過程で、学外の研究者等と連携・協力する。</p>	
	達成指標	<p>①については、一般社会人聴講者数および同聴講者数が全聴講者数に占める割合</p> <p>②についても、一般社会人聴講者数および同聴講者数が全聴講者数に占める割合</p> <p>③については、企画・立案を検討する会合の開催回数・検討内容など</p>	
2	年度末報告	執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	<p>①については、新型コロナウイルス禍により開講を断念したため評価できない。</p> <p>②については、参考までに、インターネット上(YouTube)で公開している当該講演会動画へのアクセス数を示しておく(いずれも2022年3月13日現在)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「占領下沖縄における学校教育の成立(1945-1949)」:前・後半合計322件 ・「上代東国方言と琉球の古典語」:155件 <p>③については、所員会議のやり取りやメールのやりとりにより学外の研究者等と連携・協力をはかっていた。</p> <p>以上により、目標をほぼ達成し、質の向上が見られると評価できる。</p>
		改善策	<p>①について、2022年度はオンデマンド形式による開講となるが、引き続き一般社会人聴講者増加対策に努められたい。</p> <p>②については、特になし。</p> <p>③について、引き続き学外の研究者等と緊密な連携・協力をはかり、本研究所創設50年記念事業および関連事業を達成することが望まれる。</p>
【重点目標】			
<p>①各種定期刊行物—とりわけ、2020年度に刊行できなかった『琉球の方言』—の刊行</p> <p>②沖縄復帰50年へ向けた—公開シンポジウム等—記念事業の企画・立案</p>			
【目標を達成するための施策等】			
<p>①については、編集委員会の活性化(構成員の補充など)をはかる。</p> <p>②については、企画・立案に広く学外研究者等の参加を請い、協力・連携体制を構築する。</p>			
【年度目標達成状況総括】			
①については、予定のすべての定期刊行物—とりわけ2020年度は刊行にいたらなかった『琉球の方言』—の刊行に漕ぎつ			

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善することができた、A:従来通り効果的に取り組むことができた、B:改善することができなかった。」を意味する。

けたことは評価できる。

②についても、記念シンポジウムの企画、前近代貴重史料・文献目録の作成、記念展示の企画・準備において、学外研究者との協力・連携体制を作ることができた。

【2021 年度目標の達成状況に関する大学評価】

沖縄文化研究所の重点目標であった定期刊行物の刊行については、2020 年度には刊行できなかった『琉球の方言』も 2021 年度には無事刊行でき、全ての定期刊行物を刊行することができたのは高く評価できる。また、同じく重点目標であった沖縄復帰 50 周年へ向けた記念事業の企画・立案については、学外との研究者との連携により公開シンポジウムの企画、準備が進んでおり、2022 年度における確実な実施が期待できる。2021 年度も「総合講座 沖縄を考える」は開催できなかったが、代替策として 2 本の講演をオンラインで公開している点は、評価できる。2022 年度の「沖縄を考える」の着実な開講が期待される。楚南家文書および赤木文庫（横山重琉球関係資料）の目録化と解説の作成、中野好夫資料の目録化についてはまだ完成に至っていないようなので、今後も着実に仕事を進めて貰いたい。新型コロナウイルス感染症感染予防対策については閲覧室に時間予約制、人数制限等の適切な対策がとられたことは高く評価できる。退任された人員の補充は適切に行われていることを確認した。

IV 2022 年度中期目標・年度目標

No	評価基準	研究活動
1	中期目標	研究所創立 50 周年記念プロジェクトおよび関連プロジェクトを確実に実施する。 人文・社会の 2 つの研究プロジェクトが毎年、研究成果を刊行できる研究体制をつくる。 研究のための外部資金を確保する。 収集・受け入れの進んだ貴重文献や各種コレクションの整理を進め、閲覧可能な形にして提供するとともに、HP などによるデジタルアーカイブ化を進める。 各種定期刊行物の発刊に努める。
	年度目標	①再開した総合講座「沖縄を考える」（オンデマンド授業）の完全実施と充実 ②楚南家文書および赤木文庫（横山 重琉球関係資料）の目録化と解説の作成 ③前近代貴重書籍・史料目録（研究所創立 50 周年記念プロジェクト）の完成 ④展示「沖縄を知り、考え、つながる」（研究所創立 50 周年記念プロジェクト。5 月 13 日～8 月 26 日）の完遂 ⑤シンポジウム「いま沖縄を語る言葉はどこにあるかー復帰 50 年目のジャーナリストたちの挑戦」（研究所創立 50 周年記念プロジェクト）の実施 ⑥各種定期刊行物の確実な発刊 ⑦退任されるなどした運営委員の補充
	達成指標	①については、授業回数、受講者数など ②については、目録化と配列した文書の点数 ③については、完成できたか否かの実績 ④については、来場者数など ⑤については、実施できたか否かの実績、来場者数など ⑥については、各々の刊行物を発刊できたか否かの実績 ⑦については、補充できたか否かの実績
No	評価基準	社会連携・社会貢献
2	中期目標	総合講座「沖縄を考える」への社会人の参加を広げる。 沖縄の現状等に関するシンポジウム、講演会等を拡充する。 研究所創立 50 年を機とした HP など広報・情報発信手段の拡充
	年度目標	総合講座「沖縄を考える」の一部の回を、担当講師の了解を得ながら沖縄文化研究所 YouTube チャンネル上で公開し、社会人の受講拡大をはかる。
	達成指標	研究所 YouTube チャンネルへのアクセス数や視聴者数
【重点目標】		
3 つある研究所創立 50 周年記念プロジェクトの確実な実施		

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

【目標を達成するための施策等】

- ①実施に必要な費用のやりくり
- ②実施に必要な人員確保と体制づくり
- ③HP、チラシ、ロコミなどによる広報

【2022年度中期目標・年度目標に関する大学評価】

沖縄文化研究所は、前年度までの内容を踏襲して具体的な中期目標、年度目標、重点目標が設定されている。2022年度から新たに中期目標に加わった「研究所創立50周年記念プロジェクトの確実な実施」については、2022年は沖縄復帰50周年でもあり節目に行うべき重要なプロジェクトであることから中期目標として適切であり、その実現のためにプロジェクトの一環である「前近代貴重書籍・史料目録作成」「展示の完遂」「シンポジウムの実施」を年度目標に設定したのは、適切であると評価する。一方で、現時点で科研費が録れていない「研究のための外部資金を確保する」という中期目標は、年度目標には全く反映されていなかったため、年度目標として設定することが望まれる。

【大学評価総評】

沖縄文化研究所は、予算的にも人間的にも十分とは言えない状況のなか、社会的責任と期待によく応えている。研究所の社会的な役割を理解しており、沖縄返還50周年にもあたる重要な年に創立50周年記念プロジェクトとして記念シンポジウム、記念展示等が行われることは高く評価できる。研究成果の発信も着実に実行されており、2022年度は全ての定期刊行物の刊行することができたことは評価できる。無料開放されていた総合講座「沖縄を考える」は社会貢献として大変素晴らしい取り組みであり、新型コロナ感染症禍のため2020年度、2021年度中止に続き、2022年度も社会人が受講できないという状況が続いているが、オンライン・対面にかかわらず早期の一般社会人の聴講再開に期待したい。一方で、オンラインで複数の講演を公開している点は高く評価でき、今後のさらなる拡充を期待する。外部資金の獲得については課題であり、中期目標に設定されているながら具体的な戦略が練られていないことは気がかりである。過去に必要な性の指摘されていた第三者評価の仕組みの導入については進展がみられなかったため、導入を期待する。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。